

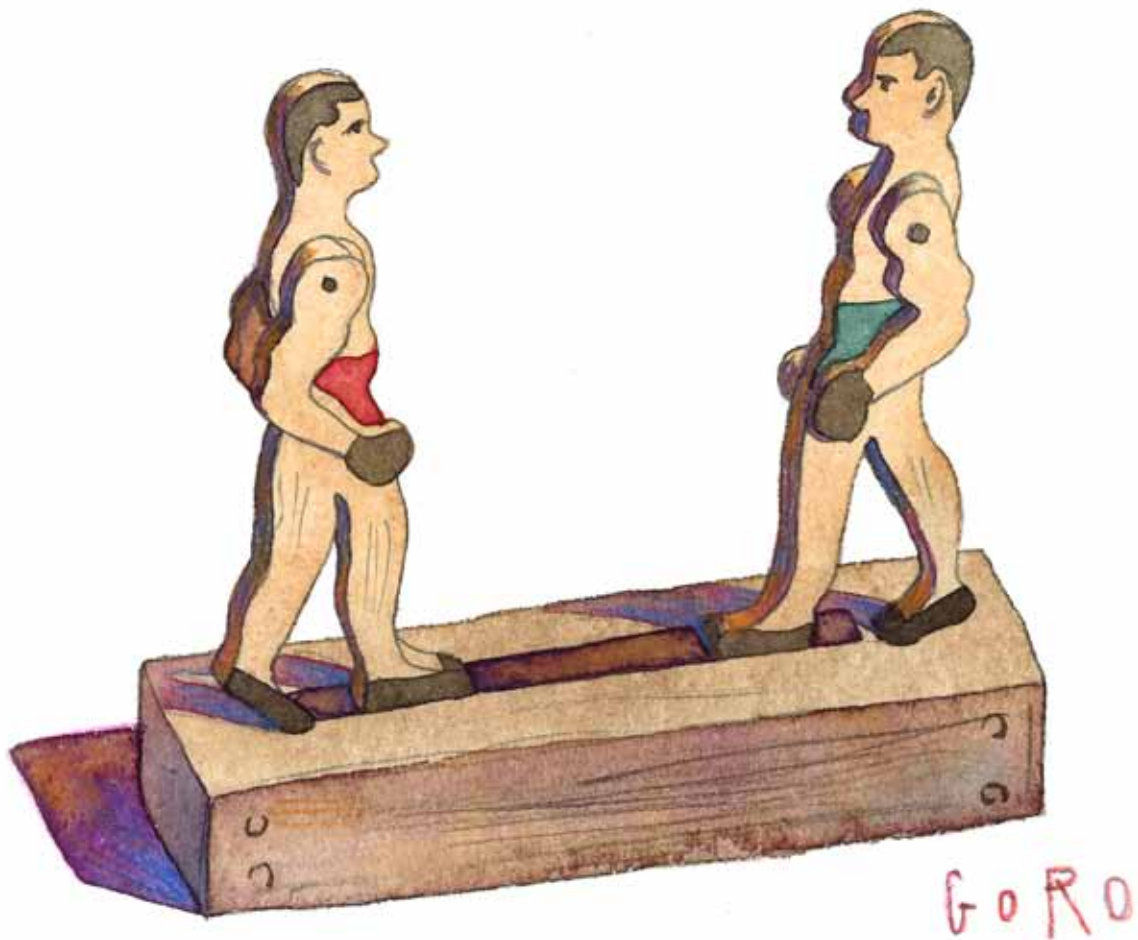
RKU Today

流通経済大学広報誌

WINTER 2013

【特集】

10周年を迎えた
三宅雪嶺記念資料館



流通経済大学

vol.22

| | | |
|---|----------------------------|--------------------------|
| 04 | 【特集】 | 文：平島敏幸（研究員）／協力：五十嵐卓（学芸員） |
| 10周年を迎えた三宅雪嶺記念資料館 | | |
| 10 | 【学長室だより】 | 小池田富男（流通経済大学長） |
| 大学の数と「教育の質」 | | |
| 12 | 【特別講義】植村秀樹教授に聴く | |
| オスプレイと沖縄のアメリカ海兵隊 | | |
| 14 | Close Up! | 流通経済大学 |
| [教職員紹介] | | |
| 16 | 【馬場啓一のRKUウォッチング】 | 文：馬場啓一（法学部教授） |
| 「ひたむきさと、自分を伝えるワザ、 これからはこれが大事ですね」 | | |
| 橋本忠昭 社会学部教授 | | |
| 18 | 【OB/OG 訪問】立川が聞く。 | 取材：立川和美（社会学部准教授） |
| 杉林 匡さん（1995年3月卒業・株式会社ウイニング代表取締役社長） | | |
| 20 | 【留学生紹介】 | 取材：沖野雅広（企画広報室） |
| イ・ジンファさん（韓国出身） 「キャリアアップして、将来の選択肢を増やしていきたい」 | | |
| 21 | 流通経済大学校友会からのお知らせ・第47回つくばね祭 | |
| 22 | NEWS & TOPICS | |

NEWS & TOPICS

全日本新体操選手権大会優勝・演技発表会／「源氏物語を楽しむ会」第100回
「新松戸光のフェスタ」点灯式／SASS・ヨリトモ協賛企画クリスマス交流会開催
クリスマスコンサート開催／春学期卒業式／2012年度第2回読書コメント大賞



大学時代にやっておくべきことは多い。一生の友となる親友を見つける。心から尊敬できる恩師に出会う。生涯のテーマとなる研究対象を探す。などなど。

愛読書となるべき書物との邂逅も、その重要なひとつである。

書物は世代によって読後感が異なる。十代には十代の、三十代には三十代、そして五十代には五十代の、それぞれ読後感がある。

すなわち人は成長に従い、感性が変化する。

そのことを愛読書は教えてくれる。ジャンルは問わぬ。文学書、哲学書、宗教書、専門技術の書物にも、それはあるのかもしれない。

学生諸君が、これぞ我が一冊なる愛読書に出会われんことを祈る。

「特集」

一〇周年を迎えた

みやげ

せつれい

三宅雪嶺 記念資料館

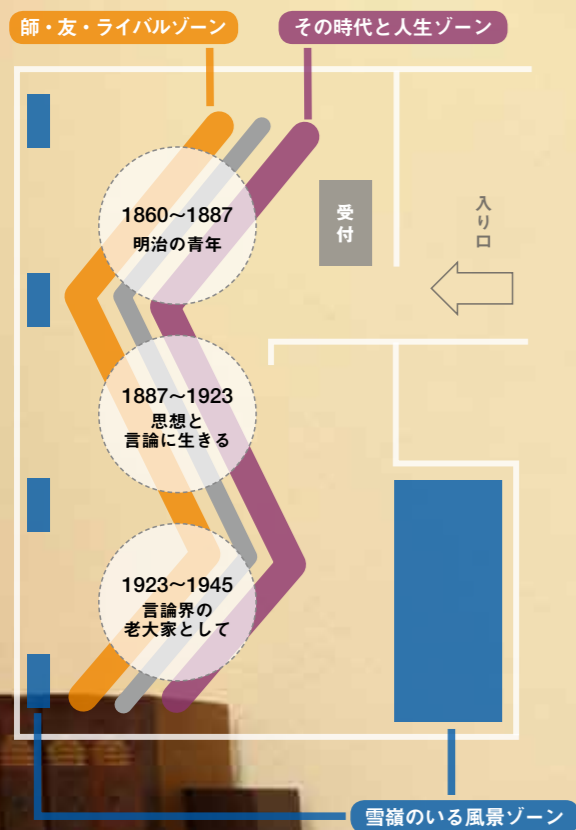
一

三宅雪嶺記念資料館

流通経済大学には三宅雪嶺の記念資料館が設置されています。

一〇周年を機会として三宅雪嶺という人物と記念資料館の活動をここに改めて紹介します。

文：平島敏幸（研究員） 協力：五十嵐草（学芸員）



流通経済大学の三宅立雄名誉教授は、三宅雪嶺の嫡孫に当たります。退職に際して雪嶺の旧蔵書・旧蔵品の寄贈を大学に申し出られました。大学は、現在の日本のような不安定な社会にあって、日本の将来を深く考えた雪嶺を改めて見つめ直すことに大きな意義を認め、記念資料館の設立を決定しました。

資料館は、二年半ほどの準備期間を経て、平成一四年（二〇〇二）五月に開館しました。場所は龍ヶ崎キャンパスの七号館です。一階に展示室があり、雪嶺の人生と業績を常設展示しています。四階には準備室と収蔵室があり、資料館業務が行われるとともに、雪嶺の旧蔵書・旧蔵品が収蔵されています。

資料館の活動は、寄贈された資料の保存と活用をはかり、雪嶺に関する調査・研究を行うことです。具体的には、常設展示の案内、資料館ニュースの発行、特別展の企画・宣伝・実施、旧蔵書・旧蔵品の整理と目録化などを行っています。

常設展示は、三宅雪嶺の生涯が「その時代と人生」「師・友・ライバル」の二つのゾーンによって紹介されています。「その時代と人生」は、雪嶺を中心とする文献資料や写真によって時代背景とともに紹介しています。「師・友・ライバル」は、雪嶺の幅広い交友関係を紹介することで、その言論活動の背景を探ることができます。

「その時代と人生」「師・友・ライバル」ともそれぞれ「明治の青年（一八六〇～一八八七）」「思想と言論に生きる（一八八七～一九二三）」「言論界の老大家として（一九二三～一九四五）」の三つの側面が追加されていて、青・壮・老の各時代に對する意識を示しています。

収蔵しているもので最も多いのは、雪嶺の旧蔵書です。自身の著作や私淑者からの寄贈本を含む和書、英語・フランス語・ドイツ語などの洋書、和洋の雑誌、また江戸時代の地図や公家の名簿などもあります。加えて、雪嶺の書や著作原稿、兄の恒徳のものと思われるノート、コレクションを貼り込んだ簿冊、など多様な文書類があります。また、モノ資料として、雪嶺が使用した硯や文鎮、トランク、双眼鏡、扇といった身の回りの物、夫人の花間の硯などもあります。

(1) その人生

三宅雪嶺（一八六〇―一九四五）は、近代日本を代表する知識人の一人です。哲学者・ナシヨナリスト・史論家としての側面が重要ですが、多方面に活動しています。内容は重複しますが、ジャーナリスト・評論家・言論人・思想家・哲人・国粹主義者とさまざまに形容される人物です。

また、旺盛な好奇心と古今東西にわたる学識の広さでも知られ、明治三四年（一九〇二）には文学博士になっています。茫洋とした風貌と恬淡とした人柄は多くの人が慕われ、自宅では「押しかけ会」「二八会」といった雪嶺を囲む機会がたびたび開かれました。

三宅雪嶺は、万延元年（一八六〇）に加賀国金沢城下新堅町（現

石川県金沢市）に生まれました。

本名は三宅雄次郎（のちに雄二郎）といい、「雪嶺」は故郷の白山に因んだ号です。父は、加賀藩家老本多家の儒医、三宅恒（立軒）です。母は、蘭医の黒川玄龍の長女、滝井です。三宅家は代々医師の家系で、滝井の兄の黒川良安も著名な医師でした。

雪嶺は、慶応二年（一八六六）に河波有道の塾に入門し、習字や漢文を習いました。明治四年（一八七二）、県の仏語学校に入り、ついで英語学校に転じます。八年に明治政府が全国に七つの官立英語学校を設立したことともない、名古屋の官立愛知英語学校に入学しました。ここで同窓となったのが、坪内雄蔵、のちの逍遙です。

明治九年に上京して、東京開成学校予科（翌年、東京大学予備門と改称）に入学しました。

二年には志賀重昂や杉浦重剛たちと「政教社」という思想・言論団体を設立し、雑誌『日本人』を創刊して、自らの主張を世に問うていきます。

三宅雪嶺は、自分が中心になる雑誌を常に保持しています。そうした雑誌として、『日本人』が発行禁止になった場合の代替雑誌『亜細亜』『日本人』と新聞『日本』が合併した『日本及日本人』、『日本及日本人』から別れた後の『我観』、女婿の中野正剛と共に刊行した『東大陸』、そして『真善美』があります。

それと同時に、雪嶺に私淑する言論人の新聞・雑誌にも執筆の場を持つていました。野依秀市の『帝都日日新聞』や『実業之世

界』、羽仁もと子の『婦人之友』、また『中央公論』などです。

雪嶺は、役所や会社に勤めませんでしたから、退職ということがなく、執筆を続けました。昭和十八年（一九四三）には文化勲章を受賞しますが、同年、愛妻の花圃が病没し、加えて頼りにしていた女婿の中野正剛が自刃しました。翌二九年と二〇年には肺炎を患い、次第に体が弱っていったようです。

二〇年の五月には初台の自宅が空襲で全焼し、八月に敗戦を迎えます。玉音放送を聞いて「軍人がつまらぬことをしたものだ」と言漏らしました。二月二十六日に死去。その前日まで原稿の口述を行っていました。

三宅雪嶺 年表

| | |
|-------------|---|
| 万延元年(1860) | 加賀国金沢に出生 |
| 慶応2年(1866) | 河波有道の塾に入門 |
| 明治4年(1871) | 金沢の仏語学校に入学、のち英語学校へ |
| 明治8年(1875) | 名古屋の愛知英語学校に入学 |
| 明治9年(1876) | 東京開成学校予科に入学 |
| 明治12年(1879) | 東京大学文学部哲学科に入学 |
| 明治16年(1883) | 東京大学卒業、同大編輯所に就職 |
| 明治19年(1886) | 文部省編輯局に移り、『日本仏教史』を出版 |
| 明治20年(1887) | 文部省退職、東京専門学校と哲学館で講義を担当 |
| 明治21年(1888) | 志賀重昂などと政教社を設立、『日本人』創刊 |
| 明治24年(1891) | 『真善美日本人』『偽悪醜日本人』を出版、『亜細亜』創刊 南太平洋諸島巡航に出発、翌年帰着 |
| 明治25年(1892) | 田辺龍子(花圃)と結婚 |
| 明治35年(1902) | 欧米漫遊に出発、翌年帰国 |
| 明治40年(1907) | 『日本及日本人』創刊 |
| 大正9年(1920) | 『女性日本人』創刊、渋谷初台に転居、『押しかけ会』できる |
| 大正12年(1923) | 女婿中野正剛と我観社創設、『我観』創刊(→昭11『東大陸』、昭19第二次『我観』) |
| 昭和5年(1930) | 三宅文庫落成 |
| 昭和18年(1943) | 文化勲章受章、妻龍子死去、中野正剛自刃 |
| 昭和20年(1945) | 死去 |

三宅雪嶺記念資料館



明治二二年に東京大学文学部哲学科に入学し、一六年七月に卒業、文学士になりました。なお、同時期に東京大学予備門や東京大学で学んだ人物として坪内逍遙の他に、のちに早稲田大学総長となる高田早苗や、岡倉覚三（天心）がいます。

明治二六年に東京大学を卒業した雪嶺は、同年九月に東京大学准助教授として、東京大学編輯所に就職します。明治二八年には、編輯所の廃止によって文部省編輯局に移りますが、役所仕事に対する不満からこれを辞めてしまします。以後、雪嶺が役所や会社に勤めることは、一切ありませんでした。

その後、東京専門学校（現早稲田大学）や哲学館（現 東洋大学）の講師として、授業を担当しています。それとともに、明治

(2) その活動

三宅雪嶺は、哲学者・ナシヨナリスト・史論家が重要です。次に、三つの側面から雪嶺の生き方を見てみましょう。

哲学者としての雪嶺は、明治九年（一八八六）から東京専門学校で哲学史及び論理学を講じました。翌二〇年からは、哲学館で西洋哲学史を担当しています。

教鞭を執る一方で、儒教と仏教を中心とする東洋哲学を、西洋哲学と並ぶものと位置づけ、両者を総合するスケールの大きな独自の哲学を構想しました。明治二二年に西洋近代哲学の歩みを紹介した『哲学涓滴』を刊行し、明治二五年には、のちの雪嶺の宇宙哲学の原型を示した『我観小景』、翌二六年に東洋の哲学に注目した『王陽明』を著わしています。

自らの体系的な哲学を示した『宇宙』を刊行したのは、明治四二年のことでした。さらにこの体系を、真・善・美に細分化して論じ、のちにそれぞれ『学術上の東洋西洋』『東洋教政対西洋教政』『東西美術の關係』として刊行されました。その後、さらに『人

類生活の状態」を著わして、生活の哲学を提示しています。

ナショナリストとしての雪嶺は、明治二二年に同志と政教社を結成し、『日本人』を創刊します。そこでは、政府の専制主義と欧化主義が批判され、日本の伝統と実情に即した開化が主張されました。それは、単に西洋化によることなく、アジアや日本の主体性を保ちながら近代社会を実現する方向を目指すものでした。そのような方向は、日本の独自性と正当性をひたすら強調する独善に陥ることなく、日本の長所を伸ばすことで日本は世界に貢献ができるという国際的な視野を併せ持ったものでした。

雪嶺は、明治二四年に近代日本のナショナリズムの古典ともいえる『真善美日本人』を刊行しました。同時に『偽悪醜日本人』を出版し、日本人の欠点や短所を克明に述べています。このようなバランス感覚が雪嶺のナショナリズムを独善から救ったものと思われま。

雪嶺は歴史に対する関心が深く、しばしば歴史を論じています。史論家としての雪嶺です。『偉人

子、樋口一葉が小説を書くようになったことは有名です。三宅花圃は内助に尽し、雪嶺は花圃に頼り切っていました。晩年に至るまで二人は仲むつまじく過ごしました。

雪嶺の兄の三宅恒徳は、雪嶺に先んじて東京大学を卒業し、東京専門学校で教鞭を執りました。恒徳の息子、三宅恒方は昆虫学者です。恒方の妻、安子は東京大学初代総理の加藤弘之の姪に当たり、作家・評論家として知られています（筆名やす子）。二人の間の娘、艶子も作家になります。花圃の関係では先に記したように岳父の田辺太二が外交官で元老院議員、花圃のいとこの田辺朔郎は京都帝国大学教授で、琵琶湖疎水事業の中心だった人物です。朔郎の姉、鑑子は、花圃とともに「秋の舎」で学び、建築家の片山東熊に嫁んでいます。

雪嶺に私淑した人物としては、実業之世界社の野依秀市や岩波書店の岩波茂雄がいます。岩波は、雪嶺の本名「雄二郎」にあやかって、その息子を雄二郎、雄二郎と名付けています。ロシア通のジャーナリスト大庭柯公、朝日新聞の丸山幹治や長谷川如是閑、



およそ100年前、南極探検隊の白瀬轟(しらせのぶ)中尉から贈られたペンギンの剥製

乃跡』『明治思想小史』『東西英雄一夕話』などの人物論、思想史、英雄論や歴史随想がそれに当たります。とくに自分が生きた万延元年(一八六〇)から昭和二〇年(一九四五)までを、編年体で記述した『同時代史』は、史論史学の傑作といわれています。

(三) その周辺

三宅雪嶺は、明治二五年(一八九二)に田辺龍子(花圃)と結婚しました。田辺龍子は、旧幕臣で外交官の田辺太二(蓮舟)の娘で、近代日本において女性として初めて小説を書いた人です。

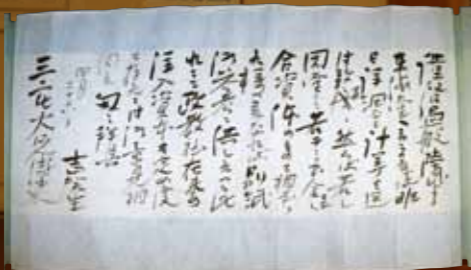
その小説『藪の鶯』がきっかけで、中島歌子の歌塾「秋の舎」の妹弟

また仏教運動家の高島米峰も雪嶺の私淑者でした。

社会主義者とも縁が深く、大逆事件で知られる幸徳秋水や日本の社会主義運動を先導した堺利彦、社会主義から社会評論家、在野史家に転じた白柳秀湖の名前を挙げることができます。雪嶺は、幸徳の遺著『基督抹殺論』に乞われて序文を寄せ、また堺利彦の墓に揮毫しています。

三宅雪嶺は、月に何回か、妻の花圃とともに歌舞伎や新派を観劇に行きました。春夏の大相撲も観戦しています。第三二代横綱玉錦、第三五代横綱双葉山を応援していました。また、月に一度はハイヤーでドライブを楽しましました。行き先は、三浦半島や秩父などでした。

コレクションも趣味の一つでした。収集対象は多岐にわたり、切手や貨幣、絵葉書からシガーラベル、マッチラベル、煙草パッケージ、トランプまで、実にさまざまなものを集め、整理しています。



三宅雪嶺宛 志賀重昂書簡



三宅雪嶺宛 岡倉天心書簡



資料館に展示されている三宅雪嶺と妻・花圃の肖像画



三宅雪嶺記念資料館では講演会を毎年開催しています。関係者、研究者の方々の講演のほか所蔵資料の展示等を行い、多くの方々にご来場いただいています。



スフィンクス前の武士

三宅雪嶺記念資料館 利用案内

所在地：〒301-8555 茨城県龍ヶ崎市120 流通経済大学7号館1階
開館日：月～金曜日(大学授業期間中)
開館時間：午前10時～午後4時
入館料：無料
お問合せ：TEL. 0297-60-1808(資料館)・0297-60-1151(総務課)

※予定の変更等もありますので、見学希望の場合は電話などのご確認をお勧めします。また、閉館期間中であっても、事前に御連絡いただければ、見学可能な場合もあります。

〔学長室だより〕

大学の数と「教育の質」

学長 小池田富男



vol. 15

Tomio Koikeda
Gakuchoshitsu Dayori

我が国には現在、国公私立を合わせて七八〇校ほどの大学があり、全国の私立大学のおよそ四六％が定員割れを起こしているという現状は、確かに「大学設置基準の大綱化」以降の「規制緩和」による急激な大学数の増加によるものである。しかもその間に一八歳人口は着実に減少を続け、これが大学間の熾烈な競争を生み出している。ところがこうした事態については、先の田中真紀子文部科学大臣の大学の設置認可をめぐる一連の発言と騒動が発生したり、また規制緩和による大学の数の増加があたかも我が国における高等教育の「質の低下」を招いたかのような誤解が生まれるなど、どうも事実とは逆の捉え方がなされているようである。

入学してくる学生の「基礎学力の低下」と「大学教育の質の低下」とを同一に論ずる誤りはここでは置くとしても、それらが設置認可等の事前規制の強化と「裁量行政」に逆行することで解決され得るとする乱暴な教育改革論の温床になるとすれば、見過ごすことはできない。大学の数が増加したのは確かではあるが、しかし大学進学

率は相変わらず五〇％の水準で低迷しており、入学者数も増加したわけではない。むしろ生き残りを懸けた熾烈な競争によって、各大学とも、格段に教育内容の改善と「質」の向上を実現してきている。「設置基準の大綱化」以前の、事前的厳しい許認可を受けなければならなかった時代には、今日のように入学者数など、恒常的な教育改革が行われることなどなかった。

一九七〇年代や一九八〇年代頃までの大学においては、現在のように入学者数の増加が明確に定められ、それぞれの教科で教える内容にまで立ち入って教員同士で相互に検討することなど考えられず、達成度評価も含めて、講義内容を評価されることなどありえなかった。かつては難関校と言われた私大でさえ、特に文系では、全てがグローバル・スタンダードに準拠したテキストと内容で講義が行われたわけではなく、独りよがりの講義や、担当教員の書いた汎用性も市場性もないテキストを買わされたという経験をされた方も多いのではなからうか。休講しても、よほどの良心的な教員でない限りは補講することもなく、年

えている。しかし、大学教育の主たる目標はそこにあるのではなく、それを前提にした教養科目や専門科目の修得にある。また、偏差値が高いか低いかにかかわらず、卒業時の就職内定率は大学間でほとんど同じであり、いずれも七〇％前後にすぎない。ほとんどの大学で卒業生の二割から三割近くがフリーターやニートに甘んじている現状を打開することこそ、真に解決すべき課題であろう。いわゆる「基礎学力」と生涯にわたる就業力を担保する「社会人基礎力」は全く別のものであるが、むしろ新しく設置された大学ほど、きめ細かな指導を通じて、こうした就業力の育成に積極的に取り組んでいるかもしれない。

間の授業回数は実際のところ現在の三分の二程度だった。

この間の大学数の増加によって、入学定員数と入学者数とがほぼ同じになる「ユニバーサル化の時代」が到来することになったが、しかしそれとともに我が国の大学進学率が急激に高まった訳ではない。同一世代の四割から五割程度しか大学に進学しないという状況に至るまでほとんど変わっていないのである。そこで、仮にこの間に大学に入ってくる学生の「基礎学力」が急激に低下したとすれば、それは、大学に進学してくる同世代の五割ほどの学生たちの間で、急激に学力格差が開いたからだというべきであらう。少なくとも、入学者数の増加によって学生の「基礎学力」が低下したということにはならない。

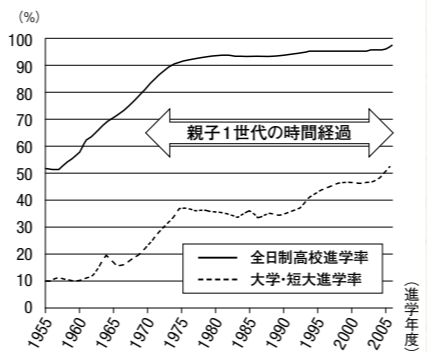
確かに、大学へのユニバーサル・アクセスによって、大学の多くが、AO入試や推薦入試などへの安易な依存を高めている事実は否定しがたい。その結果として、高校時代に塾に通う生徒も相対的に減少したかもしれない。しかし入学してくる学生のかなりの部分が熾烈

な受験競争を潜り抜けていないことで、学生の「基礎学力」が低下したというのであれば、問題は大学教育とは違うところにある。そもそも、受験のための競争に頼らなければ高校生の「基礎学力」を底上げできないという、中等教育のあり方そのものについて検討を要するのではなからうか。むしろ各大学は、その導入教育において、「基礎学力」の向上のためにかなりのエネルギーを費やして対応している。更に現在では、「単位制の実質化」と成績評価の厳格化に向かつて動き出している。

本学でも入学してくる全学生に英・数・国の基礎学力テストを行い、一定のレベルに達しないものには、補講を義務づけることも考

高校・大学進学率の変化

戦後の我が国において高校及び大学への進学率が急激に上昇し、「学歴構造」が大きく変化したのは、1960年から1975年までのおよそ15年間であった。この15年間に、高校進学率は60%台から90%台へと、大学進学率は10%台から40%ほどへと急激に増加したのである。しかしその後は逆に、40年近くたった現在に至っても、高校進学率及び大学進学率は、それぞれ10ポイント程度しか増えていない。



(出所：文部科学省・学校基本調査)



〔学長の活動〕 2012年10月～11月

10月

- 2日 茨城県経営者協会寄付講座開校式
常陽銀行 鬼沢会長来訪
- 3日 日本大学岩瀬高等学校、
県立下妻第二高等学校訪問
- 6日 校友会7期生の会出席
- 8日 女優戸田恵子さんと対談
- 9日 学部長連絡会議
- 10日 二松学舎大学創立135周年記念式典出席
- 12日 県立佐竹高等学校、日立商業高等学校訪問
- 15日 駒澤大学開校130周年記念式典出席
- 19日 国士館大学館長故柴田梵天氏葬儀出席
- 23日 IT戦略会議
- 30日 台湾校友会会長陳池元氏来訪
大学協議会

11月

- 2日 米国南オレゴン大学一行来訪
- 3日 東京女子体育大学
創立110周年記念式典出席
「源氏物語を楽しむ会」懇親会出席
- 4日 東京学館船橋高等学校、
秀明八千代高等学校訪問
- 7日 県立栗橋北彩高等学校、
花咲徳栄高等学校訪問
- 10日 指定校推薦入試
- 13日 全学入試協議会
国際ラグビー協会ゼネラルマネージャー来訪
- 15日 ベトナム海事大学一行来訪
- 17日 松戸市市民講演会挨拶
- 20日 新体操部個人優勝、準優勝報告
- 21日 日刊工業新聞インタビュー
- 25日 ラグビー関東大学リーグ戦決勝観戦
- 27日 大学協議会

「オスプレイと 沖縄のアメリカ海兵隊」

安全性が大きな問題となっている新型機オスプレイと、沖縄に駐留するアメリカ海兵隊の実情について、法学部の植村秀樹教授に講義していただいた。

[特別講義]
植村秀樹
教授に聴く

て海外では唯一沖縄にあるのみです。こう聞くと、沖縄の海兵隊は最前線の部隊という印象を持ちますが、実はそうではなく、海兵隊の主力は米本土の部隊です。紛争時に出撃するのは常に本土の部隊が中心です。見かけと実態は大きく違うのです。オスプレイの沖縄配備は尖閣諸島の問題とはまったく無関係ですし、この問題でオスプレイが使われることも考えられません。

オスプレイの実際上の問題点は他にもあります。通常のヘリコプターは、海難救助などにその威力を発揮します。ニュースなどでよく知られたところですが、オスプレイは、そのローターの小



オスプレイは米軍の新たな輸送機として開発され、配備された機種です。通常のヘリとは異なり、主翼に取り付けられたローターと呼ばれる推進翼が可変、すなわち水平から垂直に変えられるのが特徴です。これにより狭い場所から垂直に離陸上昇でき、上空でローターを水平に変えることで、前に進める特性を持っています。ヘリコプターと一般の航空機の両性を備えているわけです。

このような構造は古くからアイデアとして存在しましたが、オスプレイのように実地に配備された例は過去にありません。それだけ複雑で難しい構造だ、ということでしょう。

オスプレイの利点は前記の特性を生かし、狭い場所からの離着陸を可能にしているところと、一旦水平飛行になると飛行機並みの速度が出せるところにあります。また荷物の搭載量も普通のヘリより数段階勝っています。

速く飛べ、沢山の人員や荷物が積めて、狭い場所での離着陸が可能となれば、大いに期待を集めるようになるのは当然です。ところが、これがそう簡単な話ではなかったのです。

まずこのように複雑な構造の機種を開発するには多額の費用がかかります。しかも、開発は予定より大きく遅れてしまいました。そのため、当時の国防長官が開発

を中止しようとしたくらいです。しかしそれでもオスプレイ自体が格段に優秀で、そして安全であれば、問題はなかったのです。ところがそうではありませんでした。

オスプレイは開発中から何度もトラブルを起こし、現在実戦配備された後も、これまでしばしば事故を起こしています。実は、開発の途中で陸軍はプロジェクトから下りてしまいました。他の軍も調達数を減らしたために、一機あたりの値段が大きく跳ね上がる結果となってしまいました。

それでも、何とか実戦配備にこぎつけ、ご承知のように沖縄にも配備されました。オスプレイはB29で知られるボーイング社と、ヘリの開発では経験と実績があるベル社の共同開発になるものです。海兵隊は当初からこのプロジェクトに特に力を入れ、後押ししてきました。開発中止とならずに済んだのも、海兵隊の政治力の賜物といっ



米軍の海兵隊は今日、世界に三カ所しか、その主要な拠点を有しておりません。米本土に二カ所、そし

●植村秀樹/うえむら・ひでき

1958年愛知県生まれ。早稲田大学法学部卒業。青山学院大学大学院博士課程修了。博士(国際政治学)。読売新聞社、文部省、本学経済学部助教授等を経て、2001年より現職。専攻は国際政治学、日本政治外交史。特に戦後日本の安全保障問題について研究している。主な著書に「再軍備と55年体制」「自衛隊は誰のものか」「現代日本のガバナンス」(共編著)などがある。



Osprey & United States Marine Corps in Okinawa

Hideki Uemura





[新松戸総合事務センター(学務担当)]

掛川 淳 係長

学生たちの将来に期待

けやき通りに面した新松戸キャンパスのオープンスペースで、子どもたちが遊んでいるのをよく見かけます。春の気持ち良い日に、母親と子どもが遊んでいました。「こんにちは」と挨拶をすると、近所にお住まいとのことでした。母親は、子どもの成長が楽しみなんだろう、遊んでいる姿を見て微笑んでいました。親は子どもが入学(小・中・高・大)する度に、期待と希望を込めることなのでしょう。縁あって本学に入学したので、できれば卒業してもらいたいのですが、様々な理由で退学する学生たちもいます。しかし、退学を人生においてのマイナスと捉えるのではなく、方向転換という意味でプラスに捉え、次に進んでほしいと思います。手足を骨折すると、人間の体は再び骨折しないように、その部分が太くなるといいます。退学を経験したことで、精神的に強くなって将来の糧にしてほしいです。

また、本学での経験が役に立ち、入学して良かったと思ってもらえたらいいと思います。

学生たちの将来に期待します。



[スポーツ健康科学部]

山田 睦雄 准教授

医師の立場から
スポーツに携わる

スポーツ健康科学部の教員であり、ラグビーをこよなく愛する整形外科のドクターでもある。授業科目は、スポーツ医学、スポーツ外傷、機能解剖学、そして大学院では、アスレティック・ケア論を担当する。先生のポリシーは、「医学は体育系の学生の興味関心が薄い分野で、かつ難しくとっつきにくい分野でもあるので、この難解な内容をいかに単純化し、さらにイメージ化して理解しやすくするかということである」という。その言葉のとおり、論理的な考えと解りやすい解説は、スポーツ健康科学部の学生にとって人気である。

学生には、「決めたことは最後までやりきること！ その場に留まってよくよしないで、常に前を向いて進む道を探してほしい」と語る。

大学教員と医師のデュアルキャリアを持ち、毎日多忙な日々を送っている様子も伺えるが、趣味はスポーツ観戦と自分を限界まで追い込むトレーニングだという。将来は、「書道を始めたい!」という文科系の要素もあるマルチな才能を目指す先生からは、様々な世界の話をお伺いする。 (荒井宏和・記)



[法学部]

野尻 俊明 教授

事業への規制とその緩和は
車の両輪のようなもの

2014年の脱稿を目指して、目下「貨物自動車運送事業政策の変遷」を執筆中とのこと。先生は1984年に「規制改革と競争政策」という本を上梓されていますが、この本はアメリカの運輸事業を題材に、当時わが国ではあまり知られていなかったディレギュレーション政策を紹介したもので、その後のわが国での規制緩和論議に大きな影響を与えたものだったそうです。

爾来約30年、大学で経済法を講義しながら、わが国のトラック事業をメインテーマに事業活動の自由、効率化と市場における競争の公正性の確保、政府の事業への規制介入のあり方について、研究を続けられてこられたそうです。

昨年暮れの総選挙の結果は、今後の行政に大きな変化を生じさせ、さらに2014年までには紆余曲折があることなのでしょう。それはともかく、テーマがトラックだけに政府の規制とその緩和は車の両輪として、ますます重要な政策課題となっていくことと思います。先生の長年の研究の集大成を心待ちにしたいと思います。 (馬場啓一・記)



[物流科学研究所]

小野 秀昭 教授

ロジスティクスは社会を
理解する上で役立ちます

私は教員としてはやや変わった経歴です。まず、社会人第一歩として本学の経営母体でもある日本通運へ入社。その後、運輸省大臣官房(現在の国土交通省)へ派遣され役人の世界を垣間見て、次は日通総研へ外向。バブル期終焉の頃、現在の三菱UFJリサーチ&コンサルティングに転職。社内異動も合わせれば、多くの職場を経験しました。

ただ、従事していた業務や研究分野は、運輸・流通業界及び物流・ロジスティクス分野で、事業者、監督官庁、リサーチ・コンサルタントという異なる立場から、同じ領域を見ていたことには変わりありません。この後、2008年4月に本学に赴任。

物流やロジスティクスは、私たちの暮らしや企業活動と密接に関係する機能や役割です。東日本大震災時に、緊急救援物資輸送やSCMの寸断などのニュースが報じられましたが、まさにこれがロジスティクスなのです。

私の主な担当科目は「流通情報システム論」、「物流マネジメント実践講座」です。是非受講してロジスティクスの世界に触れてみて下さい。



[社会学部]

津村 修 教授

日本社会、自分の将来に
関心を持ってほしい

流通経済大学に1989年に赴任して、早いもので23年になります。「現代日本社会の構造分析—転換期における経営・労働・地域—」を研究テーマとして、つくば市や成田市などの実態調査、企業組織や人事管理制度、近年では医療、特に病院組織の研究を行っています。授業は、就職の社会学、産業社会学、現代組織論の講義と1年生から4年生のゼミを担当しています。

日本社会は、現在、転機を迎えています。国際情勢や社会・経済環境の変化とともに、明治維新、1945年の敗戦以来形成されてきた社会関係、社会構造が適合しなくなったからです。経営、教育、医療、福祉などの分野で改革は行われているものの、根本的な改革がなされていないのが、現状です。こうした状況の影響を最も受けるのは、若い人々であることは言うまでもありません。しかし、学生はあまり関心がないようです。講義やゼミでは、就職や人事管理制度の変化などを例に、日本社会、自分の将来に対する学生の関心を高めるよう努めています。



[経済学部]

崔 光 教授

10年後を見据えながら
今を生ききる

本学に赴任して早くも16年目になりました。経営戦略論と組織論が専門ですが、最近では、企業の社会的貢献やソーシャルメディアがもたらす様々な影響を中心に研究しています。

経営学は生きた学問です。私の担当する戦略論では、企業現場と理論をバランスよく学ぶことで論理的思考力の向上に努めています。「Appleはなぜスマートフォン市場を席巻できたか」、「良いものを作ってもなぜ売れないか」、「儲かる会社と優れた会社の中でどっちが今後の時代を牽引するか」など、学生側に様々な問いを投げかけながら、考えさせています。最新のビデオを活用した小テストやFacebook上の意見交換の場である「戦略ラボ」も運用しています。

他に、昨年から学科内でCocokaraという勉強会を主催しています。現場の経営者(20人)や教員(6人)が協力して次世代の人材育成を目指す学び舎で、現在約30人の学生が参加しています。新松戸キャンパスにて毎月熱い議論が展開されています(笑)。



●橋本忠昭／はしもと・ただあき

ザホテルヨコハマの建設プロジェクトリーダーとして建築、設備、インテリアデザイン、家具デザイン、什器備品、ユニフォーム等の計画についてまとめCI計画の導入を図り、宣伝広告計画を実施した。そして宿泊支配人を皮切りに取締役総支配人を務める。その後新潟県十日町市にある当間高原リゾートホテルベルナティオにて専務取締役総支配人在籍中に「中越大地震」に遭遇し、総支配人として陣頭指揮にあたる。顧客の安全確保、従業員の生活支援、地元民への救済支援を展開する。



馬場啓一の RKU ウォッチング

RKU Watching



Keiichi Baba

授や准教授をしているのは全国で三十五名ほどです。『日本ホテル産業教育者グループ』といえます。それぞれが良い意味のスペシャリストで、私のような全てを網羅したホテル体験をした人間は稀ですね」

その稀なホテルマン橋本先生に、本学でホテルマンを目指す学生に、どのようなアドバイスを与えておられるのか、伺ってみました。

「ホテルが物珍しかった時代を我々は経ているのですが、現在の学生にとってホテルは、もう遠い存在ではありません。日常的な空間です。その意味で、ホテルに勤務することの意味合いは、我々の時分とは随分異なってきたと思います」

それは納得できる。ホテルのロビーがクラッシィでハイソだった時代がなくてあったのだ。足を踏み入れるのが畏れ多いと感じるような、そんな感情をホ

テルに抱いていた頃があった。今も一部にないわけではないが、人々の受け止め方は往時のそれとは相当違う。

「ホテルが日本人の暮らしに溶け込み、一般化した時代。そういう時代に求められるホテルマンとは、やはり真面目な人柄でしょうか。あんまり普通すぎていやになります、これは基本ですからね」

まず、そういうことなので「それから、自分を伝えるワザを持つていること」

自分が何者であるかを相手に伝えること。これは今日の社会ではひじょうに重要なのだ。前号でも強調したことである。

「そして、ひたむきであること」を伝える。これはホテルマンに限ったことではありませんが、結局ここに落ちつきますね」

諸君、真面目が一番なのだ。



Tadaaki Hashimoto

【第21回】
社会学部
橋本忠昭 教授

「ひたむきさと、自分を伝えるワザ、これからはこれが大事ですね」

本学でも人気の学科に国際観光学科がある。社会学部だ。ツアー・コンダクターやフライト・アテンダント、そしてホテルマンを目指し、多くの学生が学んできた。

橋本忠昭先生は筋金入りのホテルマン。生涯をその職務に進んで来た。六年ほど前に本学に赴任され、多くの学生を育て、慕われてきた方である。

「振り出しは赤坂東急ホテル（現・赤坂エクセルホテル東急）のフロントです。俗に言う軍艦バジャマ[※]ですね。以来一貫してホテル一筋」

柔和で温厚、ロマンス・グレーという表現がピッタリの紳士であられる。

「赤坂東急のようなシティ・ホ

テルも、サザン・クロスのようなリゾート・ホテルも、経験しました。さらにはホテルを一家から建物をこさえて、人員を募集、配備して労務、経理、人事、料飲などの各部門、そしてもちろん客室の実務まで全てを担当し、こなすという経験を、して参りました」

つまりはホテルをAからZまで、くまなく全てご存知なのである。大企業が経営する現在の大型ホテルでは、このように実務の隅々までを知り尽くしている人材はひじょうに稀だ。多くは一部門か二部門のみを勤め、そのスペシャリストになってしまふ。

「ホテルマン出身で、大学の教

※赤坂東急ホテルは、建物の形と模様から「軍艦バジャマ」と呼ばれることがあった。

困難でつらい仕事をやりとげた時、その達成感は何物にも代えがたいですね。

——本学にはどのような経緯で入学されたのですか。

はい。私は国学院久我山高校からラグビーの推薦で入学しました。一年生から四年生までラグビー部の寮で生活しまして、大学生生活の中心はラグビーでした。

——部の中ではどのような活躍をされたのですか？

私はスクラムハーフというポジションだったのですが、一年生の終わりごろ、当時監督だった上野先生（現在ラグビー部CEO）から、マネージャーをやってみないかと声をかけていただいたんです。

——ラグビー部のマネージャーといいますが、どのような仕事をされるのでしょうか？選手にお水を運んだりとかされたのですか？

——現在は社長職に就かれて二年目ということですが、お仕事をしていた中でやりがいはいはどのようなところにありますか？

世界のチャンピオンやオリンピックに出るようなスター選手はもちろん、プロデビューしたばかりの若手選手の多くが、当社の用具を指名して使ってくれることでしょうか。これは、本当に誇らしいことです。当社の商品の品質を評価してくれていることだと思います。

私の経営方針は、ボクサーの価値観の変化に素早く対応した製品を作っていくということなのですが、このためには小回りが利く必要があるんです。素早い対応のためには、海外の工場で作っている間に合わないのので、当社の製品の九五％は国内で製造しています。そのため、私は海外にあった生産拠点を日本に戻しています。

——それは、現在の社会の流れとは必ずしも一致しないではありませんか？

その通りです。コスト的には厳しいですから、価格は必ずしも安くはできませんが、品質がよく納得してもらええる用具を

OB/OG訪問

立川が聞く。

国内はもとより、世界的なボクシングブランドとして知られる株式会社ウイニングの代表取締役社長を務められる杉林匡さん。ラグビー部マネージャーとしての経験が、今のお仕事にも生かされています。

第27期生
(1995年3月 経済学部卒業)

杉林 匡さん
Masashi Sugibayashi

〈取材〉
立川和美 (社会学部准教授)



いやいや(笑)。そういった高校野球などのマネージャーとは違っていて、文字通りチームのマネージメントを行うという、自主性や主体性が求められる仕事です。対外的には他大学との試合の折衝をしたり、対内的にはチームを統制し、こういったチームを目指すのかを考え、それに基づいて戦略を考えたりします。ともかく忙しくて大変な仕事でしたが、当時は無我夢中でしたね。ただ、この仕事を通して、社会の実情を知ることができたと思います。たとえば、人間関係の作り方や、お目にかかったことのない方に連絡をとる時のマナーなど、そういったことですね。これは、今の仕事にも生きています。

—— それでは、勉強との両立も大変だったのではないですか？

そうですね。ただ、マネージャーとして部員にきちんと勉強するように言っている以上、授業には積極的に臨みました。国際マーケティング論や、経営学総論など、学生の時にはとても難しく感じたのですが、現在、仕事をしていると、「ああ、こういうことだったのか」と納得できることも多いですね。

—— 大学四年生になり、就職活動はどうされたのですか？

私は大学の入学時に、将来的には家業のボクシング用品の専門会社を継ぎたいという考えから経営学科を選んだのですが、就職に際してもそれに繋がるような仕事をということで、ラグビー関連のメーカーに就職を決めました。ここで五年間修業をしてから実家の会社に入りました。私が小さかったころは家と会社と同じ場所にあったので、社員の方に遊んでいただいたり、学校から帰ってきて雑用を手伝わされたりと、仕事を身近に見てきましたので、スムーズに輪の中に入ることができたと思います。

Wonderful Life Stories with Dr. Kazumi Tachikawa



今回のインタビューは、東京・千駄木にある杉林さんの会社で行いました。壁には具志堅用高さんのポスターやボクシングのグローブが飾られており、社員の方もスポーツマンの方が多いようです。そうした硬派な雰囲気の中、杉林さんは優しく丁寧に話してくださいました。お休みの日は、忙しいお仕事を忘れ、「もっばら家庭サービスです。2人の子供たちとよく遊んでいます」とのことでした。

ユーザーに提供していくためには、必要なことだと考えています。こうしたことも含め、現在は、経営の厳しさ・難しさを実感しています。社員の雇用を守るためには、どうしても売り上げが必要ですからね。そのため自分たちができることは、お客様であるユーザーがベストの選択ができることだと考えています。それができるといことが、私たちにとってもベストな状態につながるわけですからね。

—— 大変な点では、大学でマネージャーをなさっていた時と同じですね。本当にそうです。ともかくマネージャーをやっているときは、ノイローゼになりそうなほど大変でしたが(笑)。当時を振り返ると、あのつらさが実は楽しかったんです。自分にとって困難でつらい仕事をやりとげれば、それに対する達成感は何物にも代えがたいからでしょうね。これはラグビーでもボクシングでも同じです。勝利を勝ち得るためには、ボクシングでしたら、厳しい練習や減量を乗り越えなくてはいけません。そういったストイックな毎日の積み重ねの結果は、やはり得難いものですね。

苦しいことは誰もが避けて通りたいものですが、そればかりでは、人間としてダメなのではないでしょうか。

—— なるほど。それでは、最後に流経大生に一言お願いいたします。

私は、大学時代の基本となるのは、「どれだけ真面目に勉強してきたか」ということだと思うんです。私の会社でも、採用の際には、きちんと勉強してきた人を求めます。勉強というのは、授業に出て一般的な教養や専門分野の知識をしっかりと得ること、そして語学を修得したり資格を取ったりすることです。特に現在の社会では、どんな仕事についても語学は必要ですから、頑張ってくださいね。それに加え、自分がこれだと思ふ物事について経験を積んだり、多くの友達を作ったりといったことでしょうか。これはアルバイトやサークルその他、自分が好きなことであれば何でもよいのですが、そうしたことを通して得られることだと思います。大学時代、ともかくまずは、基本となる勉強を怠らないこと、その上でプラスαを持つようにしてほしいですね。

【交友会】

7期生同窓会開催

2012年10月6日、7期生の同窓会が龍ヶ崎キャンパスにて開催され、還暦を迎えた7期生の皆さんたちは、旧友との再会に時を忘れて語り合っていました。



茨城校友会「親睦の集い」開催

2012年10月27日、龍ヶ崎キャンパスにて茨城県校友会が開催されました。大学設立から本学に携わっているスポーツ健康科学部の久川教授の講

演の後、親睦の卓球大会が開催されました。校友会員同士ばかりではなく、在学生とも楽しそうに話している姿が、とても印象的でした。



【学園祭】

第47回つくばね祭開催

2012年11月3日、4日の2日間、龍ヶ崎キャンパスの学園祭「第47回つくばね祭」が開催されました。「RKU STYLE 龍ヶ崎解禁」をテーマに、各種展示や模擬店、ライブなどさまざまな企画で大盛況の2日間となりました。



留学生紹介

vol.20

韓国出身のイ・ジンファさん。シェアハウスに住み、世界各国から集まった人たちとの交流も楽しんでいるようです。

取材：沖野雅広(企画広報室)



「キャリアアップして、将来の選択肢を増やしていきたい」

流通情報学部流通情報学科1年 イ・ジンファさん Lee Jinhwa



——日本に留学を決意した理由は何だったのでしょうか。
 私自身のキャリアアップのためです。日本に留学する前は、航空会社の混載貨物作業部門で働いていました。仕事は、「飛行機のスペースにいかにも荷物を積んで輸送するか」、その積込みを指示する作業でした。大変なこともありましたが、充実していましたね。
 ただ、韓国は日本以上に昇進などに学歴が関係するんです。高卒の私が、後輩の上司に仕事を指導していることに納得がでなくなり、大学に進学しキャリアアップしようと考えました。

——「韓国は日本以上の学歴社会」とのことですが具体的にどう違うのでしょうか？
 韓国の教育は、一言でいうとスパルタです。朝の八時から勉強を開始し、その後テストを受

け、点数によっては、補習授業が組み込まれ、帰宅してからは宿題に取り組みます。当時の管理された勉強スタイルに息苦しさを感じたのを覚えています。
 日本の大学は、ある程度決められた条件をクリアすれば、自分が興味のある分野を突き詰めて勉強できるので、自分にあつた環境だと思いました。一年生の授業は、働いていた当時の仕事の復習にあたり、改めて物流の重要性を確認することができました。二年生に進級すると、専門性の高い授業を選べるようになるので、今から楽しみです。
 ——日本のスタイルがあつているとのことでしたが、日常生活はどうでしょうか？
 現在、八〇名を超す人たちがシェアハウスに住んでいます。そこは、アメリカやハンガリー、スウェーデン、韓国などから来

全学

1月

15日～28日 ● 秋学期定期試験
29日～3月31日 ● 春季休業

3月

20日 ● 秋学期卒業式

4月

1日 ● 入学式

就職関連

1月

28日～31日 ● 業界・企業説明会

【編集後記】

● 冬休み明けの1月中旬から、いよいよ秋学期の定期試験が始まります。今まで順調に好成績を修めてきてより上位を目指す学生や、思いどおりの成績を残すことができなかったために、今回の試験で起死回生の成績をあげようとひたすら試験勉強に励む学生など、意気込みは各人各様ですが、図書館等で懸命に試験勉強に取り組んでいる姿を見ると、良い成績を修めてほしいと願わずにはいられない今日この頃です。

● 大学入試センター試験もこの時期であり、受験・試験シーズンといえば、こたつやストーブといった暖房器具と、厚手のコートにマスク姿をイメージするのがあたりまえだと思っていました。

ところが昨年来、大学への9月入学の取り組みが論じられるようになってきました。大学入学時期が変わる可能性が出てきたのかとふと思ったりもしましたが、世界的にみると秋入学の国が多いとはいえ、諸々のことを考えますと現在の我が国にはなじまないと感じている次第です。

たとえば高等学校卒業後半年の間どうするのか、あるいは秋に卒業生を採用してくれる企業はどれだけあるのか等々大きな問題が存在しているわけですが、これはもはや我が国の諸々の制度を含めた改革が必要であり、くれぐれも慎重な議論が積み重ねられなければならないことと言えるのではないのでしょうか。

● 寒さは厳しさを増し、空気も乾燥しきっている毎日ですが、ノロウイルスの感染やインフルエンザなどが、猛威をふるう季節です。学生の皆さんには体調管理に十分留意して、目標を上回る成績を修め、春休みを迎えてほしいと切に願う次第です。

(編集子)

春学期卒業式

6

9月29日、龍ヶ崎キャンパスにおいて2012年度春学期卒業式が開催され、32名の学生が本学から巣立っていきました。



2012年度 第2回読書コメント大賞

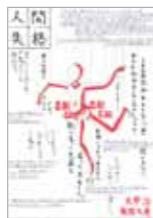
7

流通経済大学図書館が開催する「読書コメント大賞」の2012年度の第2回コメント大賞が決定しました。

今回は応募総数151作品、うち受賞36作品（大賞12作品、優秀賞24作品）の盛況をもって終えることができました。

（2012年度 第2回読書コメント大賞 12作品）

1 高島加穂里 / 社会学科2年 「読んだら、きちんと自分の知識にする方法」 宮口公寿 著 (明日香出版社) 2 長谷川尚輝 / 経営学科1年 「人間失格」 太宰治 著 (新潮社) 3 小野寺翔 / 社会学科2年 「心を整える」 長谷部誠 著 (幻冬舎) 4 白鳥花苗 / 経済学科1年 「イルカ」 よしもとばなな 著 (文藝春秋) 5 小松崎えみか / 社会学科2年 「確率捜査官 御子柴岳人 密室のゲーム」 神永学 著 (角川書店) 6 武井貴志 / 社会学科1年 「ちよんまげぶりん」 荒木源 著 (小学館) 7 雷山貴史 / 経済学科1年 「ポケット図解 はじめて読む色彩心理学: 色の科学と言葉を代弁する配色術」 岩本知沙土 著 (秀和システム) 8 藤田葉月 / 社会学科2年 「デズニー そうじの神様が教えてくれたこと」 鎌田洋 著 (ソフトバンククリエイティブ) 9 市原健太 / 自治行政学科3年 「やる気のスイッチ! (Switch of spirit)」 山崎拓巳 著 (サンクチュアリ・パブリッシング) 10 梅原翔 / 経済学科3年 「黄色い目の魚」 佐藤多佳子 著 (新潮社) 11 工藤泰明 / ビジネス法学科1年 「100年の難問はなぜ解けたのか: 天才数学者の光と影」 春日真人 著 (日本放送出版協会) 12 岩崎泉樹 / 国際観光学科1年 「海を超える想像力: 東京デズニーリゾート誕生の物語」 加賀見俊夫 著 (講談社)



全日本新体操選手権大会優勝・演技発表会

1

11月16～18日の3日間で開催された第65回全日本新体操選手権大会に本学から4名の選手が出場しました。結果は、下記のとおりです。

【優勝】

山口留奈
(スポーツ健康科学科2年) 左から2人め

【準優勝】

穴久保璃子
(スポーツ健康科学科4年) 右端

【9位】

小西夏行
(スポーツ健康科学科2年) 左端

【33位】

宿谷あゆみ
(スポーツ健康科学科3年) 右から2人目



また、11月25日、龍ヶ崎キャンパスのスポーツ健康センターにて新体操部の演技発表会が開催されました。

「新松戸 光のフェスタ」点灯式

3

第9回を迎え、すでに恒例行事となっている「新松戸 光のフェスタ」の点灯式が、11月24日に新松戸キャンパスで開催されました。地域の方々も多数参加され、盛大なイベントとなりました。



「源氏物語を楽しむ会」第100回

2

法学部・和田律子教授の「源氏物語を楽しむ会」が10年目、100回を迎え、記念の特別講演が11月4日に開かれました。写真は講師の神野藤昭夫先生と和田先生。



クリスマスコンサート開催

5

12月23日、新松戸キャンパス講堂でクリスマスコンサートが開催されました。当日は、学生を始め地域の皆様にご参加いただき、盛況のうちに終わりました。



SASS・ヨリトモ協賛企画
クリスマス交流会開催

4

SASS・ヨリトモによる企画「クリスマス交流会」が12月18日に新松戸キャンパスで開催されました。当日は、RKU guitarsやアニメ研究会の発表など、終始にぎやかな交流が行われました。



2013年度入試日程

経済学部／経済学科・経営学科 社会学部／社会学科・国際観光学科 流通情報学部／流通情報学科

法学部／ビジネス法学科・自治行政学科 スポーツ健康科学部／スポーツ健康科学科

| 入試種別 | 出願期間 | 試験日 | 合格発表 | 試験場 |
|---------------------------------|----------------------|----------------|--------|----------------------------|
| 大学入試 センター試験 利用入試 | I 12/17 月 ~ 1/24 金 | 個別試験は 実施しない | 2/8 金 | — |
| | II 12/17 月 ~ 2/18 月 | 個別試験は 実施しない | 2/28 金 | — |
| NEW! 奨学生選抜 一般入試 (3科目型) | I 12/17 月 ~ 1/29 金 | 2/2 土 | 2/8 金 | 龍ヶ崎・新松戸・東京・ 仙台・高崎・静岡・水戸 |
| | II 12/17 月 ~ 2/8 金 | 2/12 火 | 2/19 金 | 龍ヶ崎・新松戸・東京・ 大阪・小山・郡山・長岡 |
| | III 12/17 月 ~ 2/19 金 | 2/23 土 | 2/28 金 | 龍ヶ崎・新松戸・東京・ 仙台・水戸 |
| 一般入試 (問題自由選択型) | I 12/17 月 ~ 1/29 金 | 2/5 火 | 2/8 金 | 龍ヶ崎・新松戸・東京・ 仙台・水戸 |
| | II 12/17 月 ~ 2/8 金 | 2/13 水 | 2/19 金 | 龍ヶ崎・新松戸・東京・ 大阪・小山・郡山・長岡 |
| | III 12/17 月 ~ 2/28 金 | 3/6 水 | 3/11 月 | 龍ヶ崎・新松戸・東京・ 仙台・高崎・静岡・水戸 |

一般入試(問題自由選択型)とは

国語、外国語、数学の3科目で大設問が2問ずつ(計6問)出題され、うち2問を自由に選択できます(当日試験開始後、問題を見てから解答したい2問を選べます)。

2問を自由に選べる! 各50点 100点満点



例 1

「得意な国語だけで受験したい!」

「国語だけ」といった、1科目だけでも受験可能



例 2

「苦手な数学以外で受験したい!」

「国語と外国語(英語)」のように、2科目の組み合わせでも受験可能



詳しくは受験生向けスペシャルサイトへ **Special Website**

PC <http://www.rku.ac.jp/go> 携帯 <http://www.rku.ac.jp/go/m>

流通経済大学入試センター

☎ **0120-297-141**
✉ ees@rku.ac.jp

